

5

事故（溺水・熱傷・異物誤飲・子ども用品を正しく使おう）

全国各地で毎年起こる子どもの事故の多くは同じパターンの繰り返しです。子どもの事故で最も大切なことは、年齢ごとに起こりやすい事故を知り事前に予防することです。

① おぼれる：溺水

毎年多くの子どもが溺れて亡くなっています。中でも乳幼児が最も溺れる場所は自宅の浴槽です。ほんのわずかな時間目を離れた瞬間に起こることもあります。予防策として子どもが一人で浴室に入れないように鍵をかける、残し湯をしない、子どもだけでお風呂にいれないなどが挙げられます。

② やけど：熱傷

子どもが手の届く範囲の熱いものをひっくり返したり（お茶やカップ麺、電気ケトルやポットなど）触ったり（炊飯器、加湿器、アイロンなど）するため皮膚が赤くなったり、水ぶくれになります。子どもの成長に合わせて手の届かない所に置く工夫をしてください。起きてしまった場合まずはやけどした部位をすぐに冷やすことが大切です。流水で最低5ー10分程度は冷やしてから病院を受診しましょう。

③ のどに詰ませた：異物誤飲・誤嚥^{ごえん}

3歳ぐらいまでは食べ物をのどに詰ませやすく（窒息）、特に丸く、ある程度の弾力のあるもの（ミニトマト、リンゴ、ブドウ、コンニャクゼリーなど）は危険です。小さく切る、食事に集中する環境を作るなどが必要です。また子どもは食べ物以外にも手にしたものを何でも口に入れてしまいます。おもちゃやボタン電池、磁石、薬、洗剤、化粧品、電子たばこなど様々です。子どもの口に入る大きさの目安はトイレットペーパーの芯を通る大きさ（約4センチ以下）が目安になります。子どもの手の届く範囲になるだけこの大きさのものを置かないようにしましょう。

④ 子ども用品を正しく使おう

普段使っている身の回りのものでも思いがけない事故が起こっています。日本小児科学会ホームページ（www.jpeds.or.jp）には事故事例データ（Injury Alert）が公開しており、どのような事故が起きているかを知ることができます。子どもの安全に配慮した製品（キッズデザインなど）を選んで使用することもいいでしょう。

＊参考資料：事故防止ハンドブック（消費者庁）

・参考になります。ぜひご一読ください